

通信制高校のDXに関する 調査報告書

eラーニング戦略研究所
eLearning Strategy Research Institute

目次

調査概要

P.4

サマリ

1. 私立より公立でDX先行。一方、学習の中心領域におけるデジタル化は限定的 P.7
2. LMS導入校は約4割でも“活用度大”。DXの中心インフラとして機能 P.8
3. 6割がDX推進に賛成。ニーズは「業務効率化」+「個別対応」 P.9
4. 通信制高校DXは二極化フェーズに突入か。課題は“予算”と“人材” P.10

調査結果

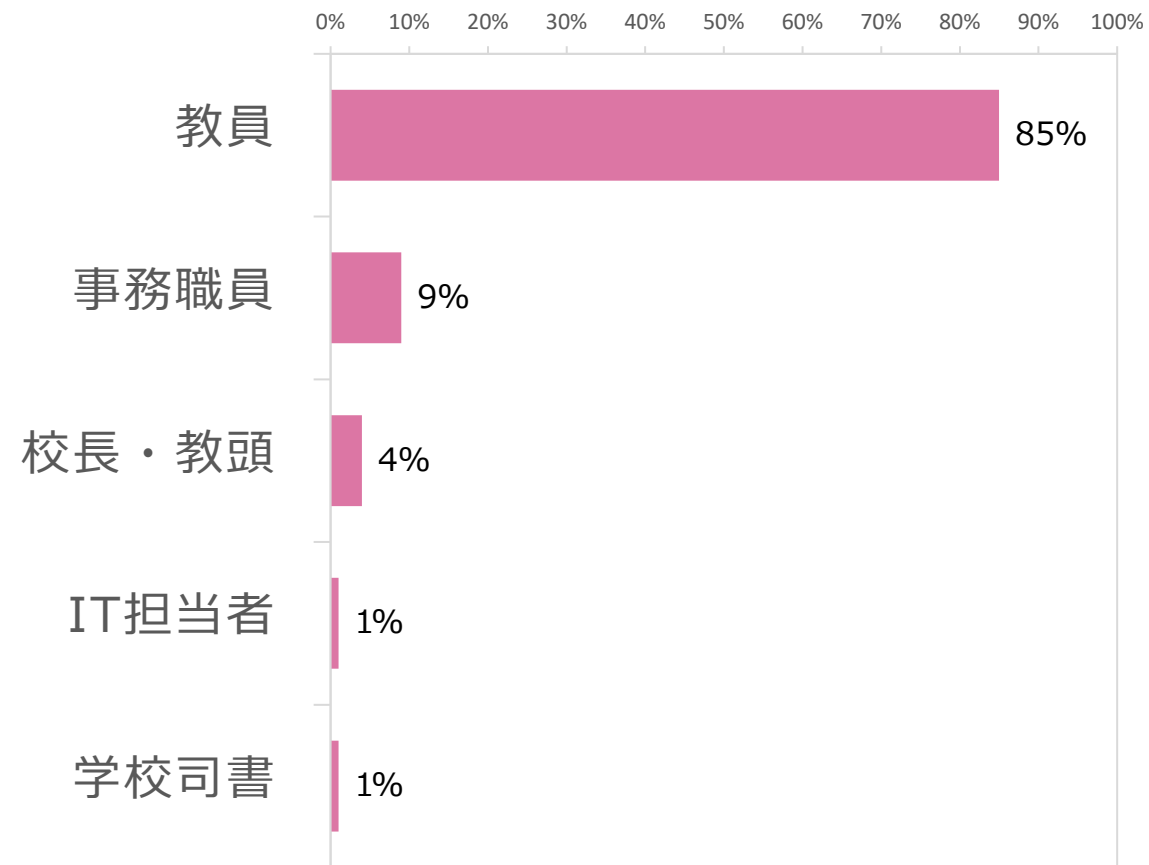
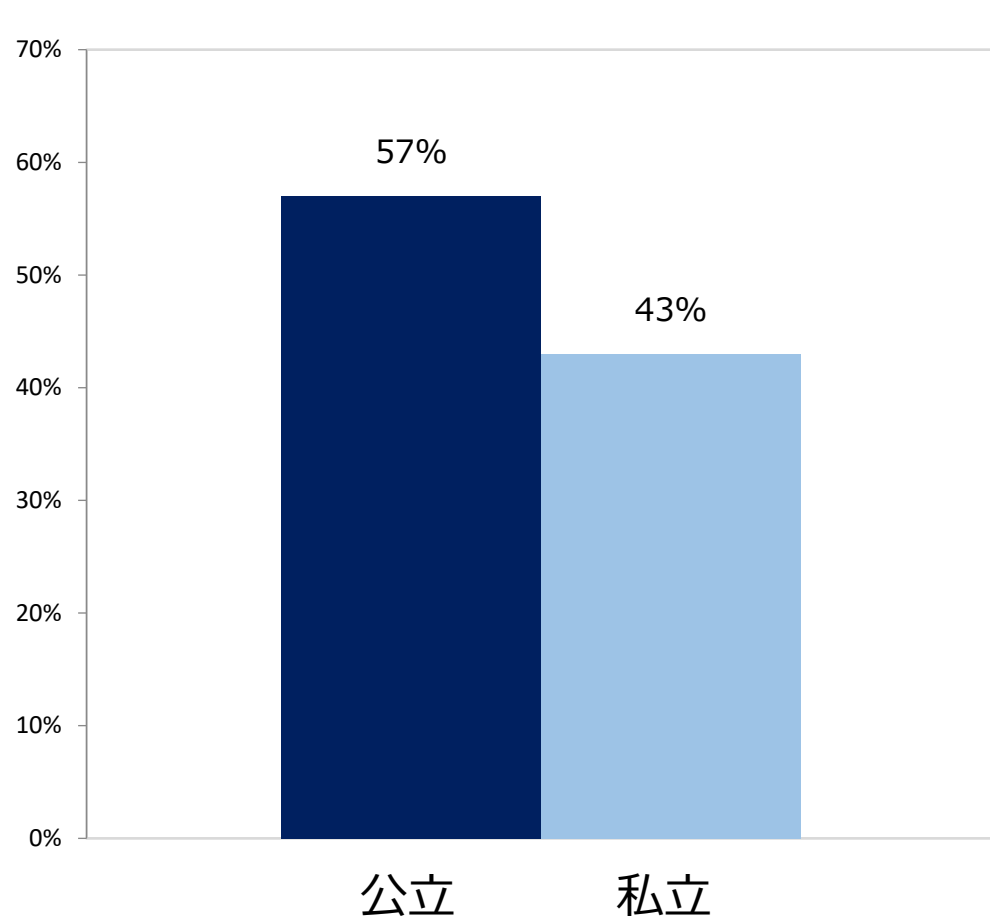
P.11

調査概要

調査概要

調査目的	通信制高校におけるDX（デジタル化）の取り組み状況を調査し、課題と今後の動向を探る
調査手法	アンケート専門サイトを用いたWebアンケート調査
調査期間	2025年5月1日～5月7日
調査対象者	全国の通信制高校の教職員（校長・教頭／教員／事務職員／IT担当者／学校司書）
有効回答数	100名
実施主体	eラーニング戦略研究所

回答者属性



サマリ



1. 私立より公立でDX先行。一方、学習の中心領域におけるデジタル化は限定的

- 1 通信制高校の91%が、何らかの形でデジタル化に取り組んでいる。
- 2 公立校の方が「積極的に取り組んでいる」割合が高い（公立：52.6%、私立：39.5%）。
- 3 デジタル化が最も進んでいるのは「教材」58%、「出席・成績管理」49%。
- 4 「レポート提出・添削」や「ライブ授業配信」など、双方向性の高い分野のデジタル化は30%台に留まり、学習の中心領域でDXの“深化”が進んでいない。
- 5 今後進めたいDX領域は「ライブ授業配信」「レポート提出・添削」「事務手続き」などが高順位。
- 6 学習体験の質の向上に加え、事務業務の効率化・手続きのペーパーレス化への関心も高い。出席管理の「QRコードや顔認証」など、先端技術導入への期待も広がっている。

2. LMS導入校は約4割でも“活用度大”。DXの中心インフラとして機能

- 1 LMS（学習管理システム）を導入している通信制高校は44%。
- 2 導入予定・検討中を含めると約70%がLMS活用に前向きである。
- 3 LMS導入済みは全体の44%だが、活用範囲は非常に広く、1校あたり平均4機能を使い分けている。
- 4 活用用途トップ5は、「オンライン授業の配信」59.1%、「出席・成績管理」52.3%、「レポート提出・添削」52.3%、「教材配布」47.7%、「学習進捗管理」45.5%。
- 5 LMS導入校では、LMSが“校務と学習を統合する情報基盤”として中核的に機能しており、通信制高校のDXにおいて先行組といえる。

3. 6割がDX推進に賛成。ニーズは「業務効率化」+「個別最適化」

- 1 57%が「DXを推進すべき」と回答。否定的意見(12%)を大きく上回る。
- 2 デジタル化の最大のメリットは「教職員の業務効率化・負担軽減」61%。
- 3 さらに「進度が遅い子への対応」「進度が早い子への対応」といった、生徒への個別対応へのニーズが注目される。
- 4 通信制という性質上、学習の個別最適化が本質的に求められており、DXはその実現のための有効な手段として認識されている。
- 5 DX推進は業務効率化に加え、「教育の質向上」への期待も寄せられている。

4. 通信制高校DXは二極化フェーズに突入か。課題は“予算”と“人材”

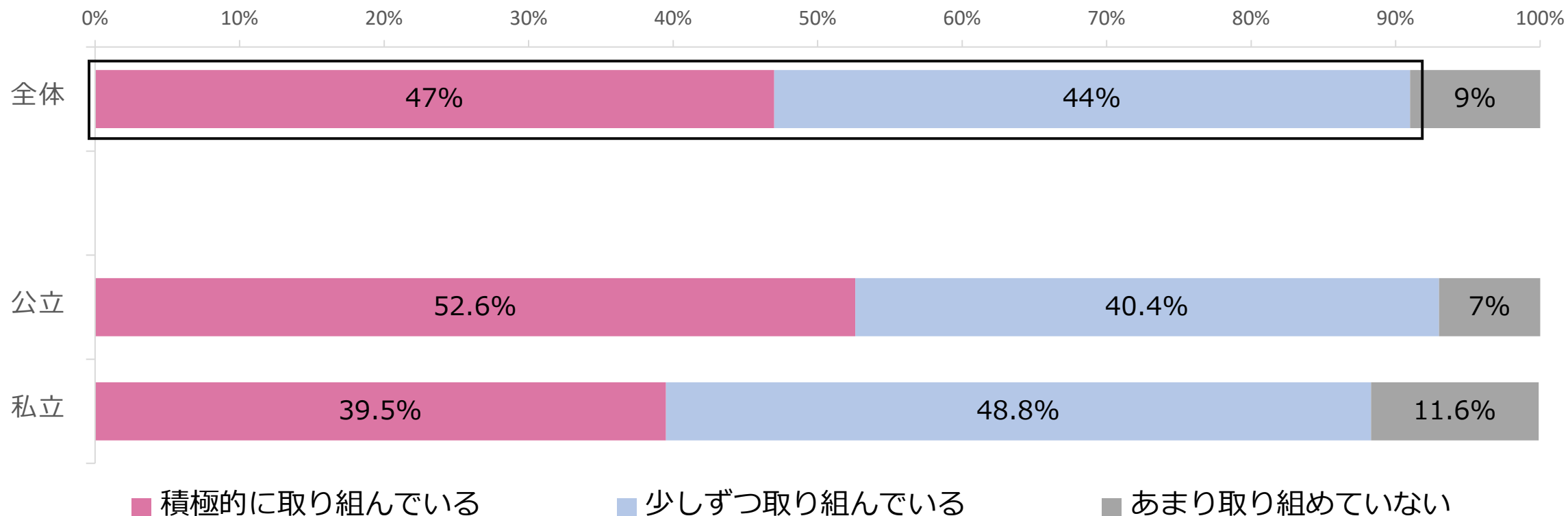
- 1 DX推進のおもな課題は「予算不足」48%、「教職員のITリテラシー不足」46%。
- 2 国や自治体による財政的支援（補助金・助成金）、教員向けリテラシー向上研修の体系的な提供、LMSの導入支援や校務支援システムとの連携強化などが求められている。
- 3 一方、「すべてをデジタル化すると学力が下がる」「デジタル化に嫌悪感を示す高年齢教員」「オンライン授業では集中力を把握できない」など、DXには今なお慎重な見方も見られる。
- 4 以上の結果より、LMSなどを活用し先進的に取り組む“先行組”と、教員のリテラシーや予算の制約、抵抗感から取り組みが進んでいない“停滞組”のDX格差が読み取れる。
- 5 通信制高校におけるDXは、業務効率化や教育の質向上を実現する大きな可能性を持っている。今後は、教育現場の負担を軽減しつつ、単なるIT導入にとどまらず、“人間中心設計”によるDX推進が求められる。

調查結果

調査結果

1. 通信制高校におけるDXの取り組み状況

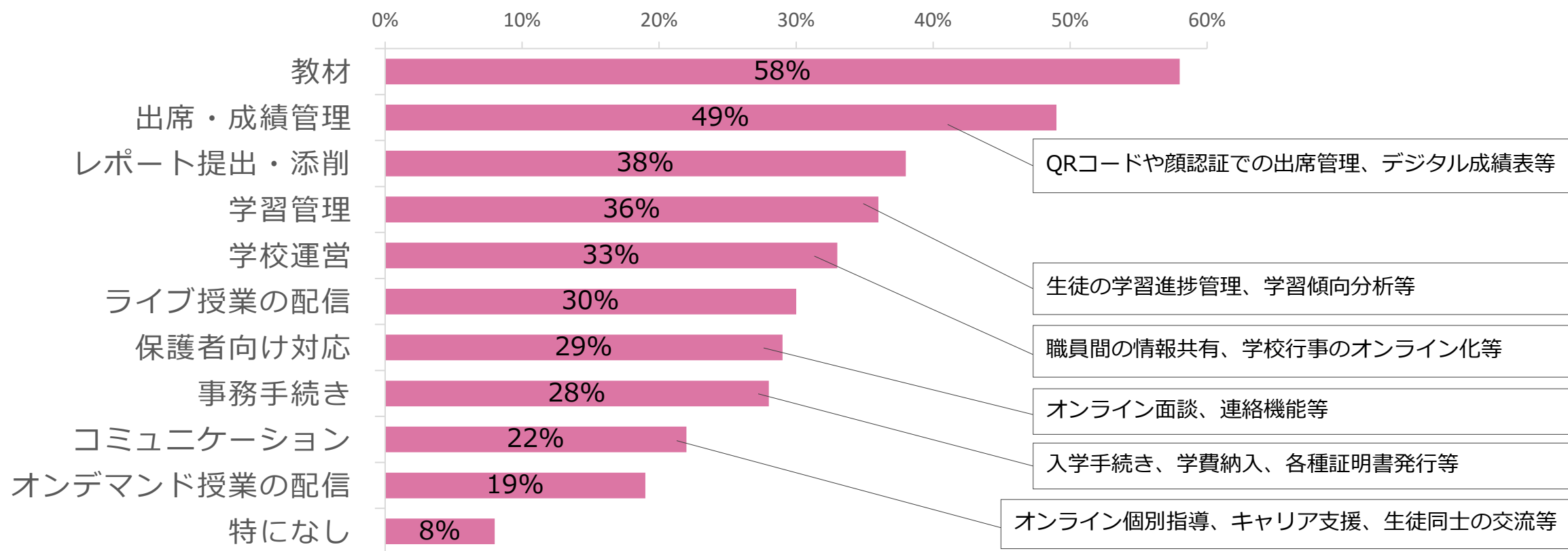
全体の91%がデジタル化に取り組んでいる。私立に比べて公立の方がやや取り組みが進んでいる。



Q：あなたの学校では授業や学習管理、事務作業におけるデジタル化に取り組んでいますか？（n=100）

調査結果 2. デジタル化が進む分野

「教材」や「出席管理・成績管理」のデジタル化が進んでいるものの、5～6割程度。「レポート提出・添削」や「ライブ授業配信」など、双方向性の高い分野のデジタル化は限定的である。

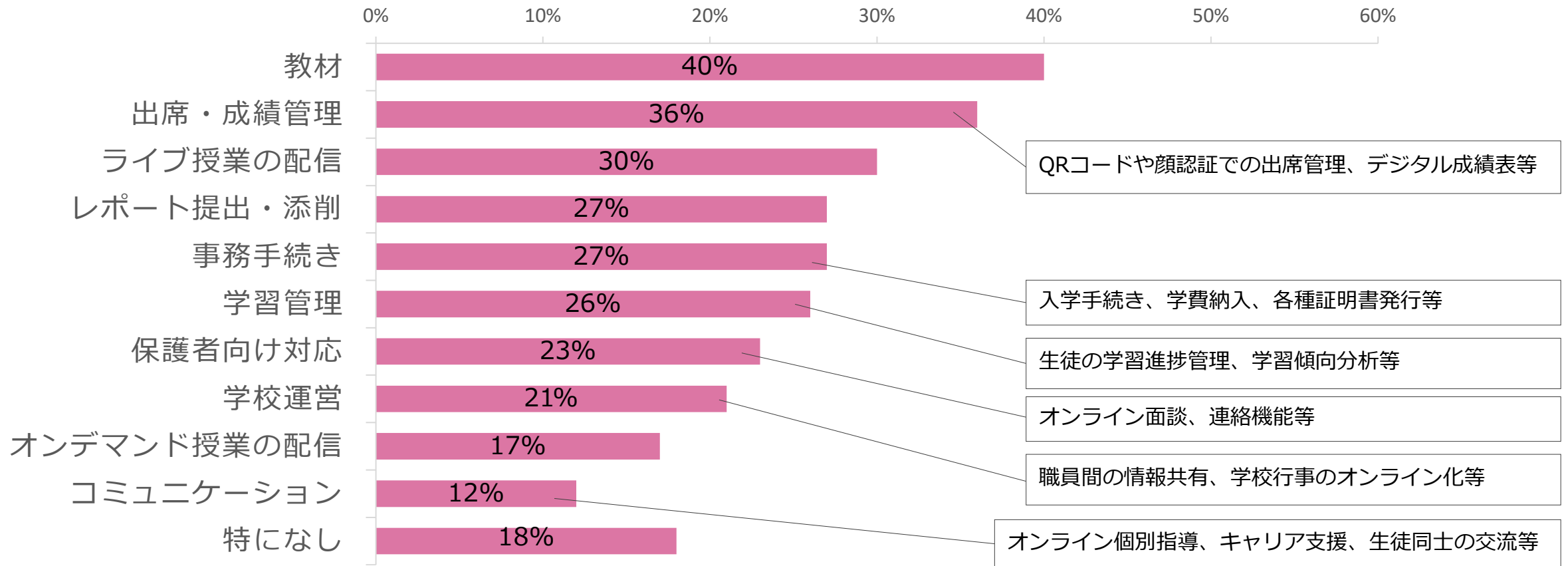


Q：学校内でデジタル化が進んでいると感じる分野を教えてください。（複数回答）（n=100）

調査結果

3. 今後デジタル化を進めたい分野

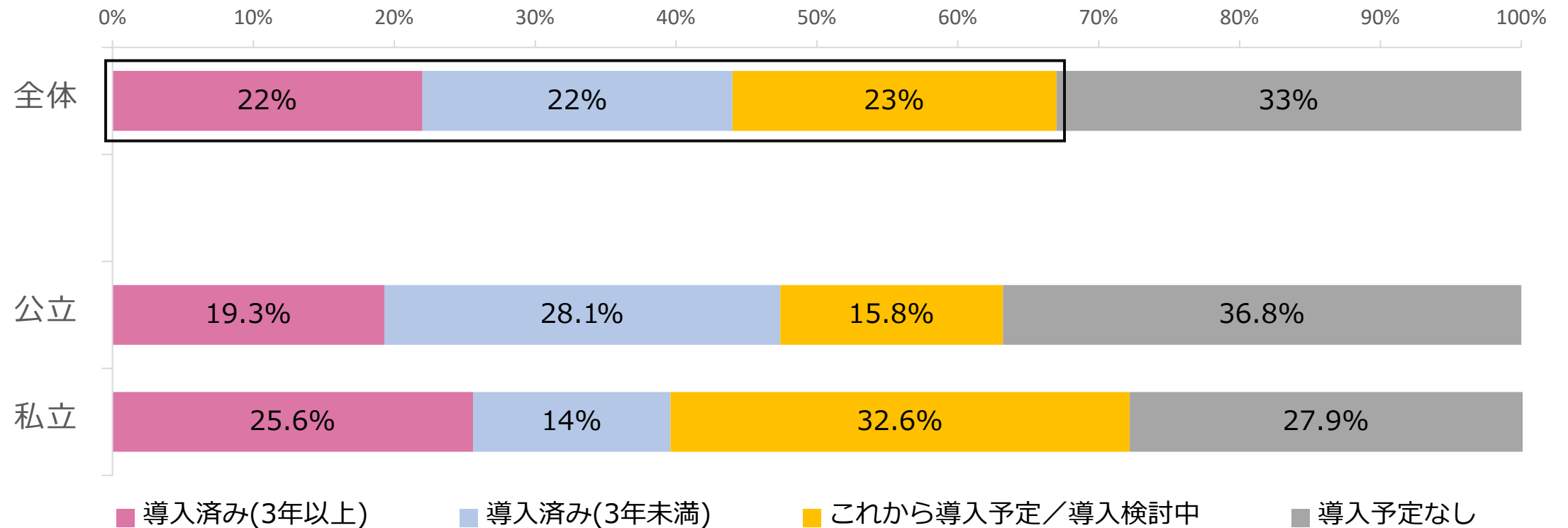
「教材」「出席管理・成績管理」以外では、「ライブ授業配信」や「レポート提出・添削」「事務手続き」のデジタル化にニーズがある。



Q：今後、とくにデジタル化を進めたい分野は何ですか？（複数回答）（n=100）

調査結果 4. LMSの導入状況

LMS（学習管理システム）を導入している通信制高校は全体の44%。「今後導入予定／導入検討中」も含めると約7割がLMS活用に前向きである。

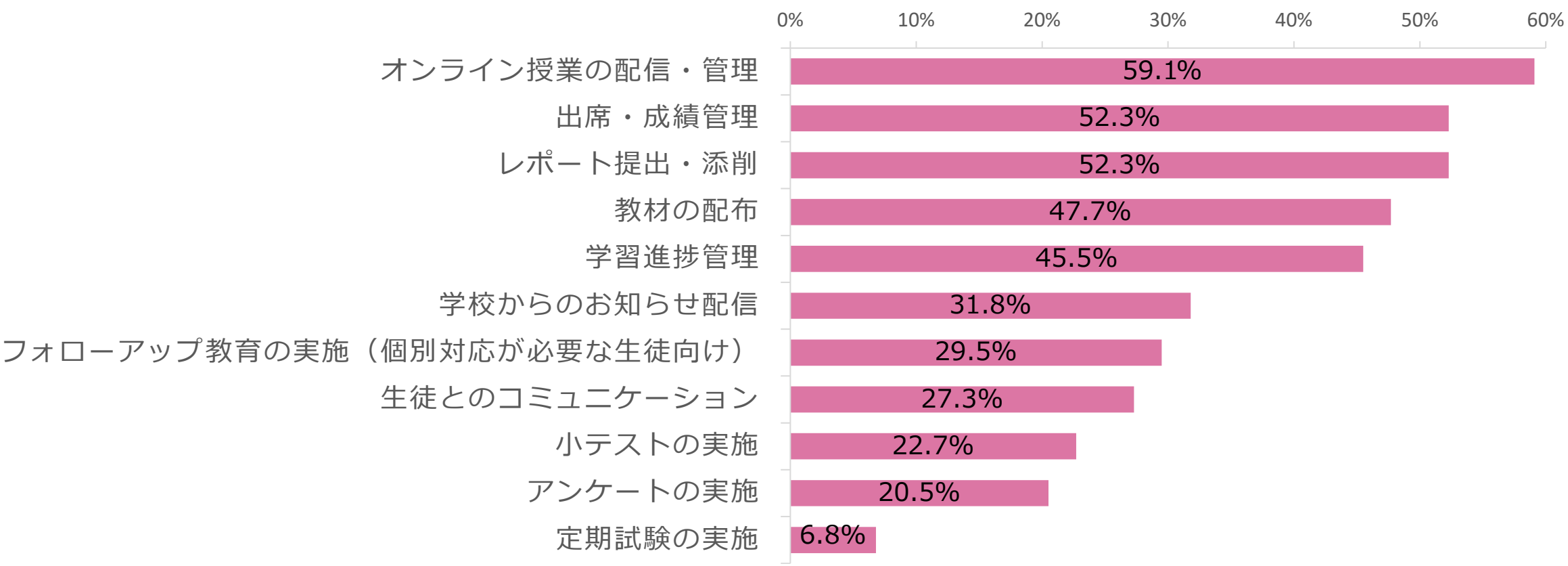


Q：あなたの学校ではLMS（学習管理システム）を導入していますか？（n=100）

調査結果

5. LMSの活用用途

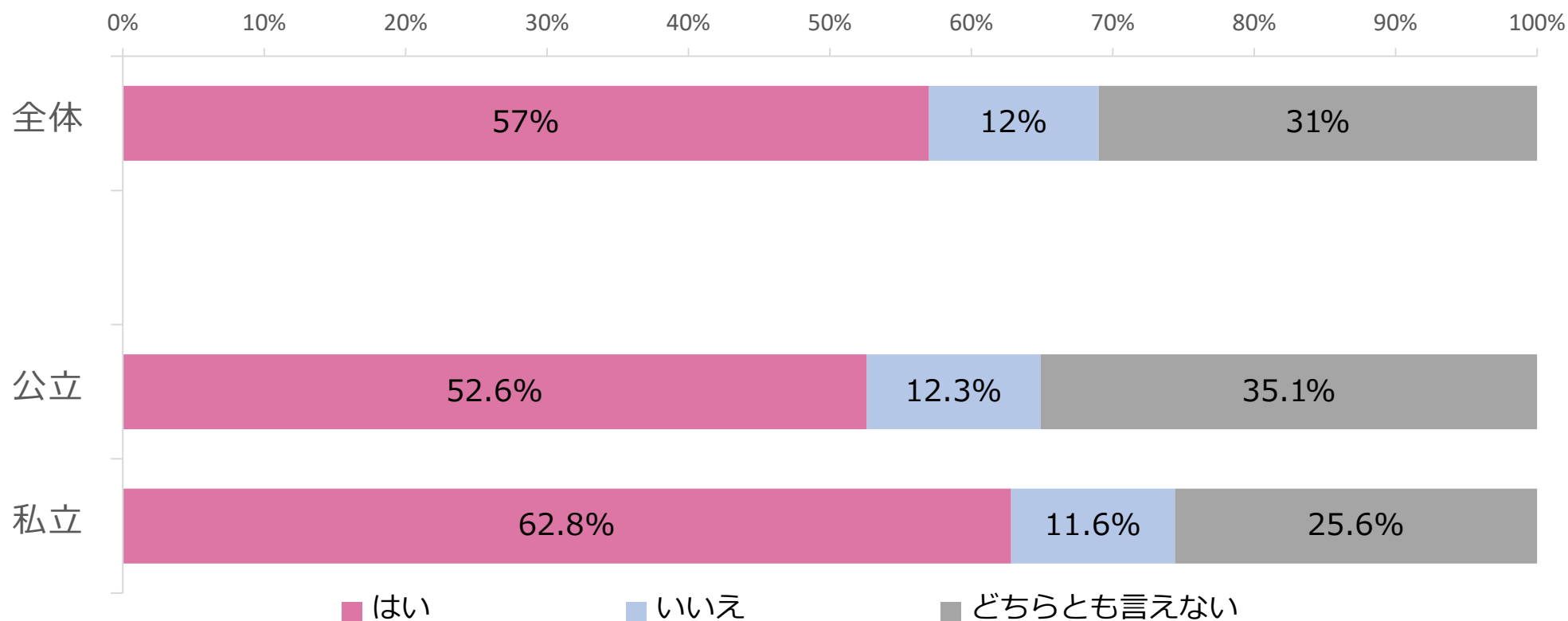
活用用途トップ5は、「オンライン授業の配信」「出席・成績管理」「レポート提出・添削」「教材配布」「学習進捗管理」。
LMSの活用範囲は多岐にわたり、1校あたり平均4機能を使い分けている。



Q：LMSの主な用途を教えてください。（複数回答）（n=44）

調査結果 6. デジタル化を進めるべきか

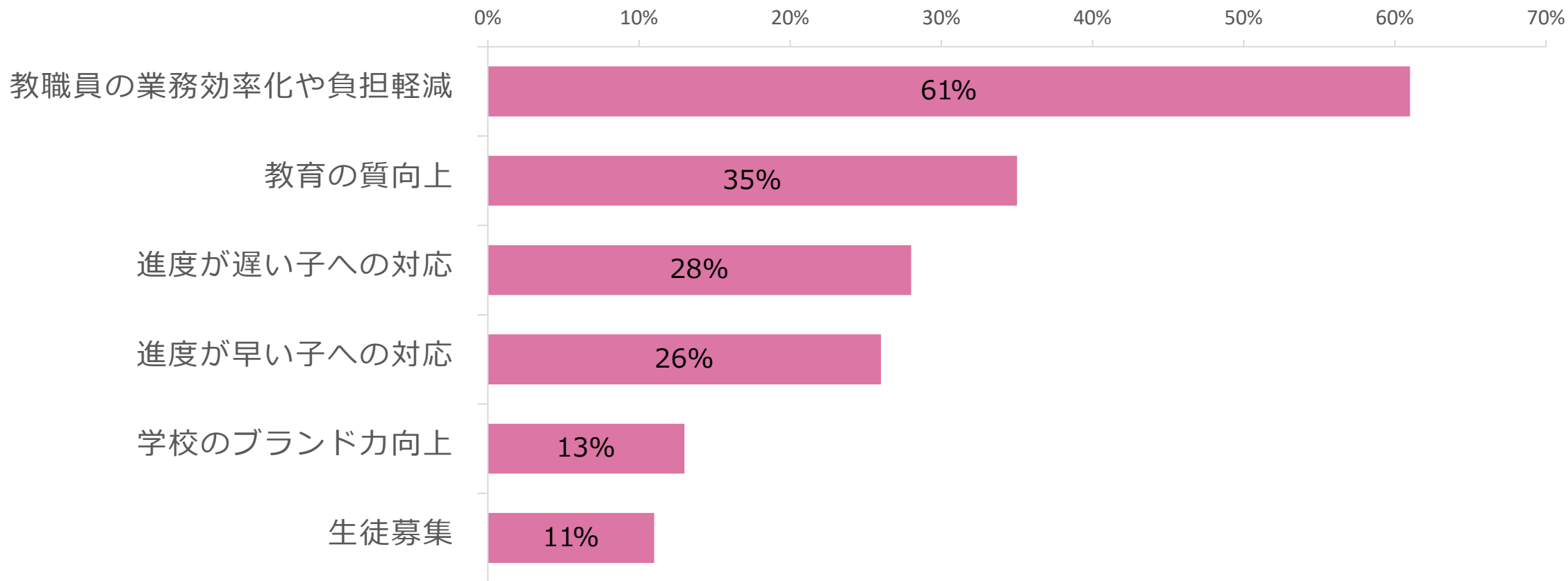
57%がDXを推進すべきと回答。否定的意見12%)を大きく上回った。公立より私立でその傾向が顕著。



Q：今後、通信制高校としてデジタル化を進めるべきだと思いますか。(n=100)

調査結果 7. デジタル化によるメリット

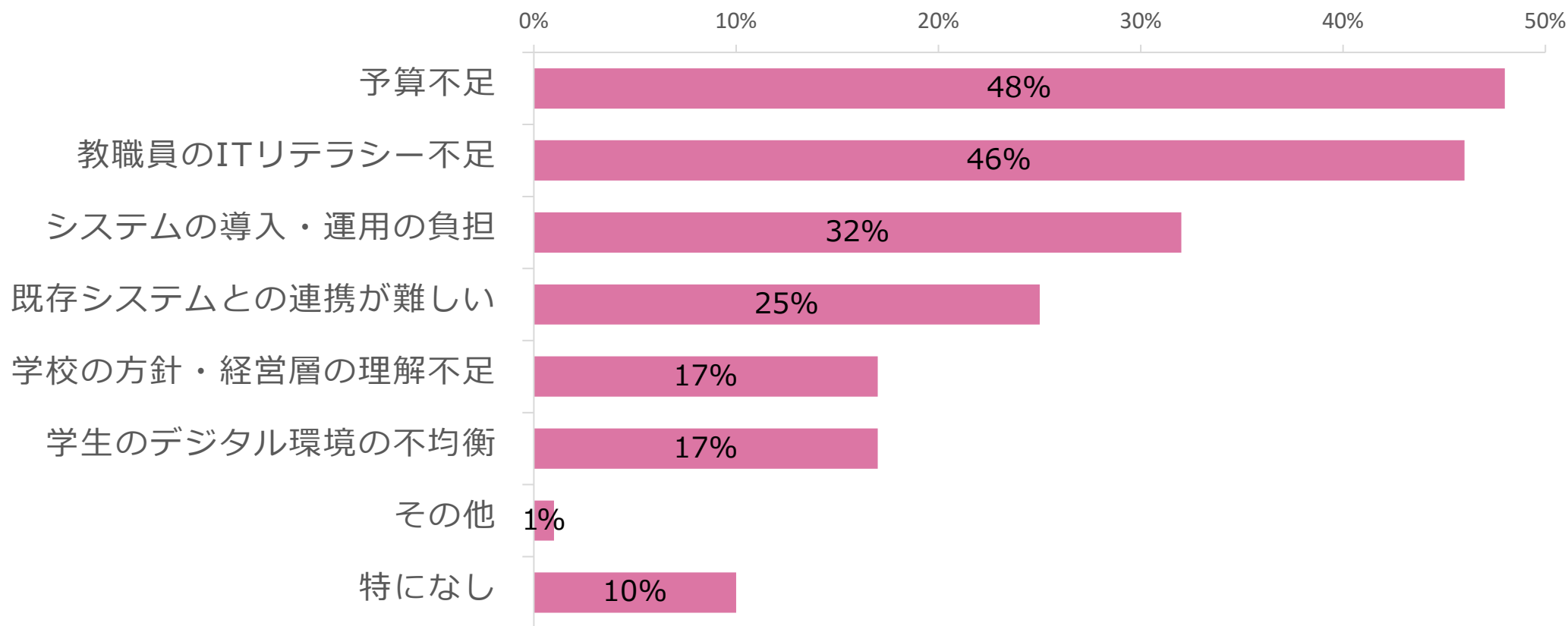
最大のメリットは「業務効率化や教職員の負担軽減」。「教育の質向上」や「個別対応」といったメリットも注目される。



Q：デジタル化を進めることはどのような点で有効だと思いますか？（複数回答）（n=100）

調査結果 8. DX推進の課題

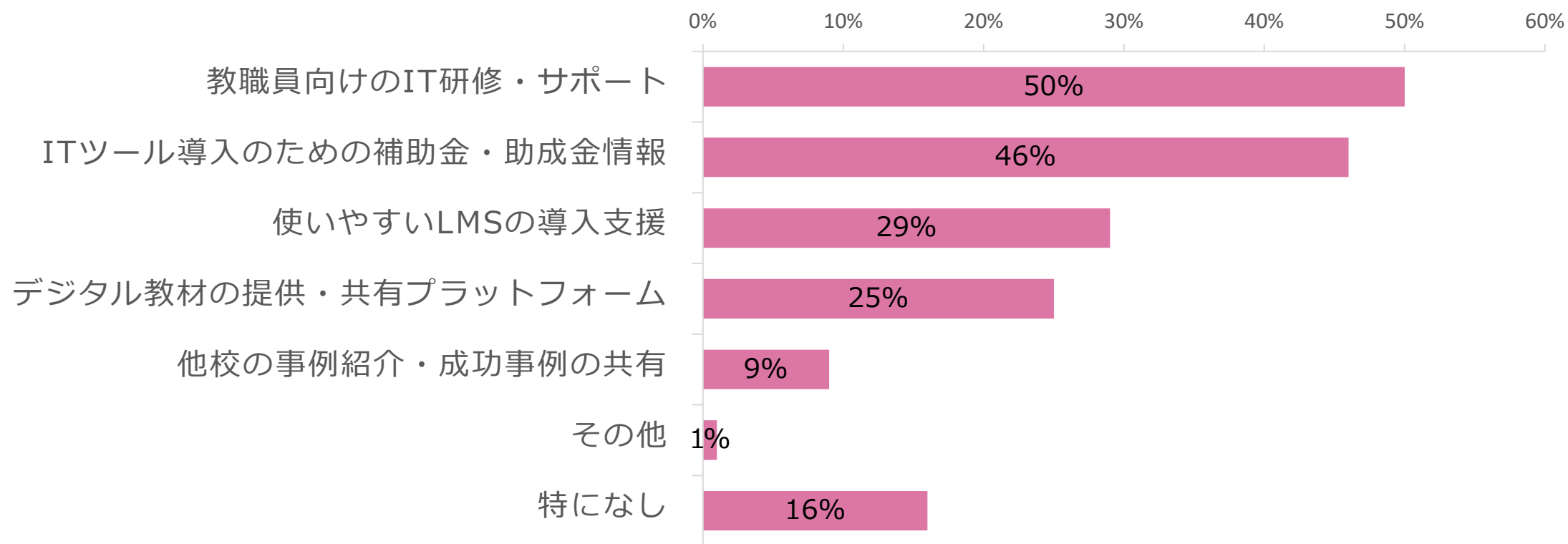
最大の課題は「予算不足」と「教職員のリテラシー不足」。システムの導入や運用が負担という意見も少なくない。



Q：デジタル化を進める上での課題は何ですか？（複数回答）（n=100）

調査結果 9. DX推進に必要な支援

国や自治体による財政的支援、教員向けリテラシー向上研修の体系的な提供、LMSの導入支援や校務支援システムとの連携強化などが求められている。



Q：デジタル化に関してどのような支援があると助かりますか？（複数回答）（n=100）

調査結果

10. 通信制高校のDX推進に関する自由意見

- デジタル機器を使いこなすまでに相当の時間と労力がかかります。これが一番の問題。システムを作り上げ広く教員間で共有し 全員が使えるようになること、そこまでに時間がかかると思います。何とかサポートができるような形があるとありがたいです（公立／教員）
- 教員の負担を軽くして最高の成果を出したい（公立／教員）
- 効率化、残業をへらす（私立／事務職員）
- 教員のリテラシーを高めることが重要（私立／教員）
- 各教員のスキルが不足していると考えます（私立／教員）
- 更なる教員の研修機会（公立／教員）
- 教員の平均年齢が高いので、デジタルに嫌悪感を示す教職員がいることが課題（公立／教員）

- 課題は予算不足（私立／校長教頭）
- 予算が課題（公立／教員）
- どのくらいの設備費がかかるかで経営と交渉しなければならない（私立／事務職員）
- 子どものやる気をどう持続させるか。直に誉められることが少なくなってしまうのではないかという懸念がある（公立／教員）
- 課題はオンライン授業にした場合、生徒が真面目に聞いているかどうか判断ができないこと（私立／教員）
- 生徒による学力のばらつきにどう対応していくか（公立／教員）
- 経済格差が大きく、多くの生徒がデジタル端末を用意できない。貸し出すだけの財源もない（公立／教員）

Q：通信制高校におけるDX（デジタル化）について、現在の取り組みの詳細や課題、今後の抱負などを自由にご記入下さい。（自由回答）（有効回答数60）

調査結果

10. 通信制高校のDX推進に関する自由意見

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 通信制ではオンライン授業などデジタル化が必要（私立／教員）● 顔の見える通信制課程として今後進歩させたい（公立／教員）● 登校に問題があるから通信制を選択したので、自宅で普通高校と遜色がない環境にしてあげたい（私立／教員）● 証明書発行手数料のPayPay等での支払いが可能になったり、出席管理がデジタル化できるとよいと思う（私立／事務職員）● 教材のデジタル化を進めること（私立／教員）● 個別最適化の授業を推進（公立／教員）● レポート管理には必須だと思う（私立／教員）● まずは校務支援システムを導入し生徒および教職員にとり有益なデジタル化やDX化に対応している（私立／事務職員） | <ul style="list-style-type: none">● DX化を進めてペーパーレス化を推進してはいきたい（私立／教員）● もっと有効活用したい（公立／教員）● デジタル化にそぐわない部分まで拙速に取り組もうとする傾向があることが心配（私立／教員）● すべてをデジタル化すると学力が下がる（公立／教員）● 世界的にデジタル化の問題が取り上げられており、日本もアナログへ戻す必要がある（公立／教員） |
|--|---|

Q：通信制高校におけるDX（デジタル化）について、現在の取り組みの詳細や課題、今後の抱負などを自由にご記入下さい。（自由回答）（有効回答数60）

通信制高校のDXに関する調査報告書

デジタル・ナレッジ 調査



2025年6月発行

発行元：株式会社デジタル・ナレッジ「eラーニング戦略研究所」

〒110-0005 東京都台東区上野5丁目3番4号 eラーニング・ラボ 秋葉原

Tel. 03-5846-2131／Fax. 03-5846-2132

<https://www.digital-knowledge.co.jp/>

(禁無断転載・転用・複写)